

昭和四十二年三月招集

第一回市議定例會會議錄(第三号)

館山市議会第一回定例会会議録(第二号)

昭和四十三年三月招集

一 三月十一日(月曜日)

一 議事日程(第二号)

議案第十八号 館山市職員給与条例の一部を改正する条

例の決定について

議案第十九号 館山市非常勤・特別職の職員に係る報

酬及び費用弁償に関する条例の一部を

改正する条例の決定について

議案第二十号 館山市長・助役・収入役に対する給与

及び旅費に関する条例の一部を改正

する条例の決定について

議案第二十一号 館山市教育長・諸給与及び勤務条

件等に関する条例の一部を改正する

条例の制定について

第二議案第三十二号

館山市青年館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

第三議案第三十三号

館山市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

第四議案第三十四号

館山市教育兼務職員への給与等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

第五議案第三十五号

館山市部課設置条例の一部を改正する条例の制定について

第六議案第三十六号

館山市職員定数条例の一部を改正する条例の制定について

第七議案第三十七号

市有財産の売却について

第八議案第三十八号

財産の交換、譲与、無償貸付等に関する条例の制定について

第九議案第三十九号

館山市固定資産評価審査委員会委員の選任について

第十議案第三十号

館山市手数料条例の一部を改正する条例の制定について

議案第三十三号

館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

議案第三十四号

館山市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について

第三十二議案第三十二号

館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について

第三十三議案第三十三号

館山市職員の手続及び効果に関する

る条例の一部を改正する条例の制定について

第五議案第三十五号 館山市消防団条例の一部を改正する条例の

制定について

第五議案第三十六号 館山市清掃条例の一部を改正する条例の

制定について

第六議案第三十七号 館山市民センター条例の制定について

第七議案第三十八号 館山市保育所条例の一部を改正する条例

の制定について

第八議案第三十九号 館山市営館山プール使用条例の一部を改正

する条例の制定について

第九議案第四十号 館山市消防賞じゅつ金条例の制定について

第十議案第四十一号 館山市企業誘致条例の一部を改正する

条例の制定について

議案第十一号

昭和四十二年館山市一般会計補正予算

(第五号)

議案第十二号

昭和四十二年年度館山市国民健康保険特別会計補正予算(第三号)

議案第十三号

昭和四十二年年度館山市簡易水道事業特別会計補正予算(第一号)

議案第十四号

昭和四十二年年度館山市と畜場特別会計補正予算(第一号)

議案第十五号

昭和四十二年年度館山市休養施設特別会計補正予算(第三号)

議案第十六号

昭和四十二年年度館山市水スル特別会計補正予算(第二号)

議案第十七号

昭和四十二年年度館山市南部簡易水道事業特別会計補正予算(第一号)

午前十時七分 開議

議長(吉田勇治郎君) 本日ヨル出席議員数 二十三名
ニヨリ第一回市議会定例会第二日ヨル会議を開会いたします。

本日ヨル議事はお手元に配付ヨル日程表ニヨリ行ないます。
ニヨリ陳議事について申し上げます。

本日ヨル議事案件ヨル内容説明は本日ヨル会議ヨルおりに終ります。本日ヨルただちにニヨガ質疑
より行ないます。

日程第一、議案第十八号乃至議案第三十号について
一括質疑を行ないます。

ニ五番(田村源治郎君) 十八号ヨル十七条ですが、臨時的任用
者について、予算内で任命権者と市長と協

職として定める」とありますが、もし予算がない場合には、
「はい、かするすか。二、臨時的就業者は給与点で
職員との格差はどうか。二、条例に違反しないような
答弁を各課の課長に願いたいと思います」。

人事課長（小沢正昭君）臨時的就用という総合的な問題
でございますから、私の方からお答え申し上げます。

要するに臨時的就用でございますので、突発的
なものもありますし、年度の始めに予想される一定
期間正式の職員でまかない切れないということも
あるわけでござりますが、期間を限らない臨時的就
職員を採用する場合には、一定の期的に職種の
に軍備を協定してあるわけでありまして、その必要が
ある場合に予算がなければ雇えないわけでござい
ますが、予算が定める範囲内ということとは事前

に任命権者が予算を議決を願ひてからということになるわけでございます。市長と協議してどういう職種とどういう期間でどういう人数を臨時的に雇うかという了解をつけて予算を願ひて採用するということでございます。

一般職と均等の関係は当然職種によつて異なるわけでございますけれども従前の関係でございますと一応役所の中事務的な分野がござります。

それからゴミとか一尿とか或いは土木関係もたまには出てくるわけでございますが、それからつきまゝではあらかじめ単価が協定されております。その範囲内で当初予算にそれだけ計上してございますのでその計画に基いて臨時的に任用していくということ

でございます。

・三五番(田村源治郎君)予算内というふうにある。いつも補正予算に認めてくれと出てくる。予算というものはあとで認めるが、予算であるか。予算というものは明らかに前に慎重審議させるものが予算であつて、補正は足りないから出すものだ。

こう条例において予算内と示されてゐるが、疑問が
おこらうと思つた。

・人事課長(小沢正治君)当然予算が先でございます。

補正予算でお願いするといふ形が出来ます。場合は当初議決されております。予算以外に予定されてお
うなかつた臨時的な業務が発生した場合とか、或いは予定計画されたものよりもさらに臨時の手を借
りなければ間に合はなくなつたといふ。補正予算を

お願いする段階で、その将来にわたって、予算を議決していただくということになるわけでございます。

二五番（田村源治郎君）任命権者がニ、予算内で協議
するということとどうたうである。たから市長が特別必
要がある場合には限りあらうぞといううがなければなら
ぬだろうと思ひますが、十七条、十八条では予算の
範囲内としかうたわけてないからお尋ねしておる。

人事課長（小沢正治君）「予算の範囲内と申します。当初予算に計上された予算の枠外は認められな
いという趣旨でございます。予算が補正さ
れて議決されたば、その予算の範囲内でさらに雇
えるということになるわけでございます。従いま
あくまでも当初予算だけに抱束さいるという
ことでは
ございません。

・三五番(田村源治郎君) いつも市なり方々調べてみると予
算を必ず前に仕事を立てている。あんな方がいかにいそ
も補正予算を出す前にやそおる仕事がある。
それらについてどういうわけだということも教えていただけ
ばよろしいわけです。

・人事課長(小沢正治君) ただいま御質問の内容は予
算が議決される前にすでに臨時を雇い上げて予
算がないのに雇い上げて使っているのではないかといい
うに受け取れないわけでございます。それはある
時点では若干そういう傾向がある場合があるかもし
いませんが、実際に支出に当たっては議会が議決を
得た上でなければ支出できないわけでございます。
予算が議決されないければ支払がなくなるわけであ
りますので、そういうことが現実にあつたとすると、

それは当然、その職員に対する支給はできないことになるわけでございます。従いまして、原則的には予算があくまで主でございます。予算を認めていただく上で採用しなければならぬということになるわけでございます。

。二〇番(中村省吾君)二五番議員の関連でございますが、十七条を新設されたこと、このことの意味は二小だけを取ればよくわかるのでございます。一からは、従来臨時の職員に給与は何に基きまして算定されていったか、今まではどういう根拠によつて算定されていったか。

この条文をこのまま考えますと、臨時任用者に対する給与は、予算の範囲内で任命権者が別に定める。二小をこのまま解釈しますと、給与というのは日額だろうと思ひますが、日額を予算の範囲

内でその都度定めて置く。このように解釈されるんです
けれども、それでよろしいか。もう一つは、従来はどういうよ
うな算定をしていったか。その二点についてお伺いいたしま
す。
人事課長（小沢正治君）臨時職、単価でございますけれど
ども、これは給料表を基礎といたしまして職種別に
旧来一応単価が設定されてあったわけでございます。
それを一般給料職員にからみ合わせてベースアップ
をやつてきておるわけであります。それら算定は
基礎としての科学的根拠という形は正確にございませ
ん。一応常識的にこういう職種については、今回はこの程度が
もう一般職が上れば、この程度上げざるが適切だと
いうことでやつて参っております。そういう関係で
はつきりと科学的に算定した根拠はございませ
んけれども、常識的に一般事務、或いは土木、清掃

作業というふうな関係の中で、一定単価を設定を
してあります。それから任命権者と市長との協議
という形で、額を改定を行なうてゐる状態でございます。

それから予算の範囲内はあくまでも、その部門の
計上額でございまして、はつきりと予算内で単価
を設定するという意味ではございません。

三番(中村省吾君)　そうしますと、従来の算定に於て
は、大体の基準が示されておる。そういうことでござい
ますね。基準が作られておる。それからベース
アップ等を考慮して増減していくということだ。

そのことはわかったわけですが、そうしますと、臨時的
任用者に対する給与と書いてある十七条に於
て、課長の説明では、その個人の給与ではなくて、

市全体う給与総額である。「予算の範囲内」ということはそういう説明があったわけでございます。そうすると十七条の疑問を感ずる。ここにはつきり「臨時」的任用の者に対する給与と書いてある。今う説明で「給与は」ということは総額をというところであつてという説明になりますと、ここに一般職の者に対する給与は何々表によるという意味と違ってくる。その点いかがですか。

人事課長(小沢正右衛門) 当然一般職に準ずるわけでございまして、給与表にもありますが、予算の上では特定個人うそのものがどのような水準でどのような定額になるというところは明確には予算の上では決定しないわけでございます。従いましてその部局に応じてその臨時が量的にも期間的にも

あうかとの予定されたものについて予算化され、その
予算の範囲内で当然人員期間というものがあ
うずから、基礎的には固まっておいて予算化される
わけでございますので、予算の範囲内ということば
厳密に申しますならば個人の実態と総ワケの実
態を予算で定められるということでございます。

ニ番(中村省吾君)大体了承いたしまして、結論的
にいきますと、臨時的職員といえどもその給与は、
今年度は予算がないから、たとえば日額八百円出
していただくを六百円でがまんしてくれというふうなこ
とはないということですね。そういう意味で、条文では
ないのだ。こういうことですわ。よろしいですか。

人事課長(小沢正治君)当然そうでございます。予算
にまつて、その個人の日額なり、月額なりが、不当に削

減さした形で支払わねるということはあり得ないわけでございます。

一〇番(西村真次君) 関係はいたしまして一つだけ参考にお尋ねしておきたいんですが、予算の範囲内という言葉は何れ条例用語といえますか。そういうことでどうしても入らなくてはならぬか。普通通に考えな場合にすべて予算の範囲内で行なわれることは当然だと思えます。

むしろ予算の範囲外でそういうことはあり得ませんけれども、特殊な場合に打ち出す必要があつても予算の範囲内で行なわれるものはこれを特になわなくともよろしいと思えますが、その点の見解をお聞かせ願いたいと申します。

人事課長(小沢正治君) 御趣旨はよくわかるのでございますが、我々法令に準拠して執行する業務であります以上

予算がなければおせないのは当然中の当然でございます
一か二ながら先ほど質疑にもございまし、なようにむし
ろ外部に対してよりも我々機構の任命権者に対す
る姿勢のただ一方と申しますか、予算があくまでも制
限するものであるという原則を任命権者に対して
示すという形の方がウェイトが強うございます。
このうゝことで一応入のかわけでございます。

二番(西村真次君) 御説明でわかりますけれども、予算の重
要性ということを一番知らなければいけないのがむしろ任命
権者である。二に対してする姿勢をただすということも
おかしな気がします。三という用語が入っているから
今までのような質問が出てくるということから、お尋ね
一はわけですが、そういふ趣旨であれば結構です。

三番(山田敬宇君) 特別職の給与に関する議案の中で

学校医の報酬が一万円となつておりますが、二小に關連いたしまして二三お聞きなれと思います。

ただいま学校医の仕事が非常にふえて参りまして従来う校医のいわゆる姿である学校長からう要請に従つてその業務をするという状況であることを我々認めざるを得ないと思つてあります。

現在、状況下において私を知つてゐる範囲では那をう小学校では県の平均体位より劣つてゐると思ひますが、第一に聞きたいことはたとえば全体う小学校の生徒が全国う体位、県の平均とどう違ふか、劣つてゐるとかまさつてゐるとか、大体同じであるとか、教えていただきたいと思ひます。

もう一つは学校保健法に従ひまして、もう体位がケツてゐるなり、法律の中で規定するやうに学校医を子供

健康管理にもつと深く入ってやる必要があるのではない
と思いますか、それについて、教育長さんはどう
お考えか。二、二点をお伺いいたします。

・学校教育課長(山根春夫君) ただいま、体位の問題で
すけれども、確かに農村部については、県平均、全国平
均より劣っている子供が多いように感じます。

館山市は体位上では、県、全国平均より優れて
いる子供が多い。一人一人によって違いますが、
全般的には、そう大きな違いはない。そういうふうに見て
おります。

・教育長(押本禧逸君) 学校、児童、生徒の健康管理の
問題でございすけれども、学校が、代表の方から今ま
でうただ、学校医ということになって、その学校医を二つに
分けて、管理的な学校医と、身体検査的の仕事に当る

いただく校診員、三つう二つうも分けていくようにたい
というのを聞いておるわけですが、三つう二つうも具
体的な学校や現場から考えますと、三つう二つう制度が
今後強くてきていくことを私も、二つうは要望、たい位
に思うわけですが、三つう二つう制度が今すぐい
えるというわけにも参らないうわけですが、三つう二つう
うう向にいくことにつきましては、教育委員会としても大
賛成をしておりますわけですが、

・三番(山田教子君)ただいま山根課長さんのお話ですと
大体、鎌山の子供の体位は大体全国同じ位だという御
容弁であつたわけですが、私、計算、たものは
必ずしもそうではなうんですが、二つうは体重とか胸圍
とかいろいろありますが、一部分については、
まさつているところもあるかもしれませんが、全体的な健

康状態から見ましても、体位は全国平均を上回わっていることは絶対ない。その点はもういっぺん再検討していただきたいと思います。

いすのいまいでも、学校給食を今後実施していかねければならない。全国的な子供の体位というものは伸びております。乳幼児もだんだん伸びております。ですから全国の水準、体位がしつちゅうかわつていくわけでございます。

要するに子供、保育状態がよくなると標準を作ると来年になるとかわるという現在、この健康管理は考えていかねければならぬ問題でございます。先ほどもありまうに、学校医のあり方に対して、もと積極的な方途を講じなければならぬということとは、これは医師会の方でもいっておるようでございますが、これは

対する教育長さんのお考えは非常にありがたいと思
います。そういなければならぬというお考えになり
ませんか。少々ともいふことである。なういふときも
早く実施する。法律の趣旨がそうであるから、忠
実に守る必要がある。そうして健康管理をする
必要がある。それに従っていつときも早く方法を講ずる
ことが大切だと思いますが、それに對する決意をお聞
きしたいんです。

・教育長（押本穂逸君）先ほど申し上げましたようにたゞいま
御趣旨はまことに結構でございます。委員会と
いたしまして、そういう方法を望むわけでございま
すが、勤務日数等もふえてきますと、給与等の問
題もござります。こういうことにつきましても、市
長をはじめ関係の方々ととくと協議をいたしまし

そういう方向に進みたいと思っております。

三番（山田教子君）大体了承いたしまして、直ぐ将来市長さんも給食センターをお作りになるという所、音に思も明らかになっております。私も賛成して、私も思いますが、そういうことから健康管理をもっと進歩したもう形態に持つていくことは、非常に必要ではないかと感じます。

「なち」に「関連」いたしまして、年間一ヶ月、大内科、医は、た町か出ております。きまつたもうたけで十何回あります。そういうことによつて現在全う安いか報酬がどうなうという考え方は決して私持つておりません。ただでもいいと思ひます。

「かー」ながらもつと進んで、そういう管理をするならば、給与の点に不ても、考えていかねければ将来い

結果が作れないということを私は考えております。で、この給与に關する今回提案に對し、まゝでは問題はございせんけれども、將來に對する考えを申し上げたわけでございます。

飲食センターを作る前提におきまして、それに並行いたしまして、学校管理に關する一つの構想を実現するように教育長さんに要望し、市長さんにも御理解ある措置等をお願いいたしまして終ります。

九番（三幣勇男君）議案第十九号について伺います。特別職の報酬額を定める大体の基準と、それから、現在、報酬額と改正後の差額について説明を願います。いかに思います。また参考のため、四十二年度における月額、日額について、それにより支払いは、合計を伺います。

人事課長（小沢正治君）総括的な関係でござい
ます。うで私から申し上げます。

四十一年度、関係と申しましても、現在例規類
集の中にございます。監査委員の知識経験を有
する者の中から選任された委員が八千八百円、議
会の議員から選任された委員五千五百円、選挙管理
委員会、委員長が二千八百円、委員が二千二百円、公
平委員会、委員長八百円、委員が七百円、教育委
員会、委員長が八百円、教育長以外の委員が千
七百円、農業委員会、会長八百円、会長代
理人六百円、委員が五千円、福祉事務所、嘱託
員八百円、家庭相談員一万六千五百円、
それから日額関係になりますと、固定資産評価審査
委員会、委員九百円、固定資産評価補助員が

千百円、その他の各関係の委員会が各七百円で選挙関係の立会人はかかりません。

それから年額表で参りますとまず、商産奨励委員会が委員二千円、消防委員会が委員五千五百円、学校医関係が千円、学校薬剤師二千円、社会教育委員が三千三百円、公民館運営審議会委員二千二百円、公民館分館運営審議会委員会の委員千百円、公民館分館長七千七百円、副館長が六千六百円、書記が二千二百円、公民館分館の分館長が六千六百円、副分館長が六千六百円、書記が二千二百円、文化財審議会委員二千円、体育指導委員三千円、保育園医六千円、国民健康保険運営協議会の会長七千七百円、委員六千六百円というものが従前より定額でございまして、一応今回は昭和三十九

年四月一日にこのように改定になっておりまして、
 が、その後最近まで、実情からいまして、当初
 申し上げましたように、それだけの出勤日数に
 形がだいぶ変動して参つてゐるわけでございます。
 非常に出勤日数の多いものが以外に低かったり、
 あまり出勤日数がない特別職が非常に高額で
 あつたりというアンバランス。この際、日額の七百円を一
 千円とするという考え方から、それを基礎にいたしま
 して従前の足額が何か意味があつたという面も
 尊重いたしまして、その基礎の上に立ちまして、現
 在の出勤日数関係を配慮いたしまして、一応この
 アンバランスを是正したという考え方でございます。
 四十二年度の支払い総額は、まだ確定しておりませ
 んけれども、一応今回の補正予算の最後の給支

、明細書にございます。特別職の給与の欄の大体千九百三十四万九千円というのが大体支払ひ予定でございます。九番(三幣勇君)たとえば畜産奨励委員年額三千円と消防委員の六千円の差はどういうことであるか。

それより四十二年度中に月額、公平委員会は何回開かれたか。委員会が性質によつては問題があったときに招集する委員会は日額でもよいように思うが、その点。

人事課長(小沢正治君)畜産奨励委員会の委員と消防委員会、委員の関係でございますが、これは現在まで二千円と五千五百円という差があつたわけでございます。一応二千円の五千五百円という。そこに設定された音程があることを考えまして、それを現在より出勤状況というものを配慮いたしまして三千円を六千円にいた

わけでございますが、これは厳密に差があつてもいいといふことはございませんけれども、一応過去の設定に基礎を尊重してということでございます。

それから公平委員会の委員につきましては、実際に今までの事件があつて招集されたという形はなかつたと記憶しております。ただ月額でございますが、一般の月額報酬関係の各種委員が月額一千円でございますが、この公平委員会におきましても四十三年度以降の計画といつて一応事件があつてもなくても例会を招集して、それによつて法規の改正とかそういう点を中心にして会議を持つていこうというふうな計画があるやうでございます。そういう点を配慮いたしまして一応月額を千円というふうな考え方をしております。

それから公平委員会が委員につきまゝては、実際に今まで
事件があつて招集されたという形はなかったと記憶して
おります。ただ月額でございますので、一般の月額
報酬関係の各種委員が月額一千円でございます。
で、この公平委員会におきまゝても、四十三年度以降の
計画といったまゝして、一応事件があつても、例會
を招集して、それぞの法規の改正とか、そういう点を中
心に、本會議を持つて、いろいろ計画があるよ
うでございます。そういう点を配慮いたしまして、一
応月額を千円というふうな考え方でございます。
九番(島野茂樹郎君) ただいまの閣議をいたすわけでござ
います。が、例規集によりますと、青年学級主事という
のが入つておりますが、今回改正の中で、それが抜けて
いるんですけれども、これは改定をする必要がないとい

う御判断をなさったのか。その点をお伺いいたいたいと聞きます。

・社会教育課長（原間利一君）お答え申し上げます。

現在公民館活動の中で各種成人講座を進めておるわけでございますが法令でいうところの青年学級、開設を見ておりませんしまた将来公民館活動の中で開設する場合には公民館職員をもって充てるというふうなことから削除したわけでございます。

○六番（望月照正君）九番議員に関連して、先ほど

小沢課長、答弁がありましたが、再度伺います。が、畜産奨励委員会と消防委員会、差額が二いほどあり、いいか。それから先ほど答弁がありましたように

に、今までアンバランスがあったために、こういう表を作ったのだという説明があったんですが、今、畜産と

消防の關係、二、三つを考えますと、過去と関連から
という言葉が聞かれたことは、大へんに残念なんです
が、その点もう一度御答弁願います。

人事課長（小沢正治君）先ほど申し上げましたようにアン
バランスの是正ということが主体でございしますけれども、
過去に設定されておりました基礎額というものは、
何から、そこに全然意味がなかったというふうものでは
ないというふうにございまして、そういう厳密にはさ
りとした根拠というものが、実態がよく把握できな
いのでございしますけれども、一応何かしら、そこに意味が
あつたはずだということを配慮いたしまして、そう上に立
つて最近、非常にアンバランスを是正して行くという
ことを配慮しながら新しく設定したというふうに考
えておるわけでございします。

二六番(望月照正君)わかりまーた。来年あたりもういっぺん
アンバランスの是正というところでこういう特別職の報
酬表がもー作っていただけるならば幸いだと思いま
す。が、その前には何かしら音の味ということを究明して
から作っていただきたいと思います。要望して参ります。

二七番(秋山大三郎君)議案第九号でございしますが、私
ここで非常に疑問を感じておりますが、たとえば
固定資産評価委員の委員とこの補助員、補助員
の方が非常に高額である。その他いろいろ委員
日額千二百円があり、千七百円があり、千円がある。
三というような差額はどんなところからそういう差額
が出てくるのか。三というところでございます。

大体この種委員に選任されているものはいわゆる

一日の日額というものが何人人間の価値を評価する
ような感じがするわけです。

私は三三三三本員の価値というものはみんな同ド立場に
おいて仕事をするわけでありまして、三三三三差額
がどんな根拠によつて出てきたか、その点についてお
尋ねいたします。

人事課長（小沢正利君）先ほども申し上げましたように、
過去に規定されておりました額というのは一応何かい
らう意味があったということとを基礎にするということとを
申し上げたわけでございますが、特に固定資産の評価
補助員のような場合には二にに従事する方は専
門の技術職員でございます。それが一戸一戸各家庭
を技術的に調査し計算する業務が伴うわけで
ございまして、当然専門職でないとだれでもい

ことには参らないわけでございます。

そういう方は最直ぐ状況からおそらく優秀な方では
 市報酬額が倍近い額で日額が定められているよ
 うな人たちでございます。そういう関係で非常にこ
 委員を任命する場合、市側といった一応では人材
 難で若慮する関係も出て参ります。そういう
 人たちの実際、賃金と配慮もかなりあるように
 ございます。そういうことで、それだけの部門別に一応先ほど
 申し上げましたように日額の委員さん、一千円という
 ものを基準にいたしまして、年間の一応出勤日数
 を参考に、設定しております。金額を基礎と
 いたしまして、その上でアンバランスを解除、新しくバ
 ランスを取って設定したというところでございます。

・二天番(秋山三郎君) 私に多く飲み込めない。問題はたとえ

過去における何かしら考慮という言葉が非常にあ
いまいかな。解釈どんなふうにも解釈できる問題であ
りまして、評価委員と補助員との差額は、補助員
の方は一つ技術者で一軒一軒回わって歩く、そー
なことを考えて高くしてある。三ついうふうに理解し
たのであります。が、いわば一軒一軒回わって歩く、こ
とはある意味によつては目録というものではなく、
委員が策定の案を張する場合でも、なにがーかう市内
出張というものがあつて、そういうものに類するのでは
ないかというところが考えらるわけですが、この報酬額
というものが、こういう差をつけることが妥当であるか
という事です。

私も申し上げたいのは、少なくとも三ついう委員に責任
をいふという人たちは、それぞれ一応見識を持つてなる。

どうして、それぞの社会的・個人的に見ましても、普通
ならば、三という額では雇えない人であり、ますけいとも
一か市の特例職でありますので、安い月給でも引
き受けた。三という立場でありますので、三という
意味合いから、特殊な技術を持ったということとは別個
に考えて、千二百月、委員と千月、委員はどんなこと
ろから生まれてきたのか。二点についてもういっぺん。

人事課長（小沢正治君）御趣旨はよくわかるんでござい
ますけれども、そ、反面、それをお願いする私どもの方
立場からいいますと、三という面で、各部門部門
やはり考え方、見方にすりまいて、どうしても、バランス
を取ったつもりが、逆の立場からさらにアンバランスだと
いう感じが生まれてくるかと思ひます。

総合的な考え方からも、配慮、一たつもりではございま

すけれども、過夫が實際の定額にそれだけ差額が
認められておるといふこともあながち無視することも
一面でできない事情もあるわけでございます。そういう
関係で、せうをある程度加味した額ということで
新しく議決をいたさたいというところでございます。
二六番(秋山大三郎君)二の質問は、何回質問を繰り返
しても平行線をたどっていく。三という感じがいたす
ありまして、課長さんといわんとする意味もわからない
わけではございません。カーどうもすりすりしないわ
てでございます。これは、将来十分に検討を加えて
何回でも改正できる問題であります。今後い
っそう御検討をお願いいたしまして、私の質問を
打ち切りたいと思っております。

二五番(田村源治郎君)十九号議案ですが、月額、日額

年額、こゝのように委員を区分してある。これは、自治法で区分しなければならぬものか、自治法で規定があるのか、ないのか、これを区分した理由を説明していただく。

人事課長（小沢正治君）厳密に三段階で区分しなければならぬという根拠はございません。一応原則は日額でございす。それを特に条例で月額、年額というものを議会で議決しなければ、そういう形でもよいということでもございまして、そういう関係から、一応月額関係につきまゝでは、地方自治法上の執行機関が主体でございす。

日額、月額関係につきまゝでは、一応各執行機関、部局別の補助機関の関係でございまして、日額、年額の関係は事務の執行上の便宜という関係から。

従前のような形で特別に改めるはどうことでもないとい
う考え方からこのまま三区分でお願いする次第で
ございます。

・二五番(田村源治郎君)——とみると地方自治^後に対しては
日額報酬であればよい。館山市はこう条例をこころえ
て日額・月額・年額というものを区別した。全国的
にこの条例を改正しても、ただ情状でもって額を上げ
ただけで何ら進歩していない。その点について日額なら
日額でなぜ全部はつきりしないのか、その点の答弁
をお願いします。

・人事課長(小沢正治君)——日額と年額の関係で参ります
と日額関係は付属機関の関係でございますので、
それ以外の委員の方たちは任命権者や招集に依りて一
応金員が均衡を取った形で出勤の形も定まる

わけでございますけれども、年額関係になりますと、
 年間に自主的な活動が認められておるような委員
 の中では、それと同様に肩書きの方でも、出勤日数
 というものもつかまへ方が非常に困難なところもあ
 るわけでございます。そして、実際の活動内容から
 いきましても、これを日額で把握して一々報告を
 取り、實際を確認して、その日ごとに報酬を払っていく
 ということも煩瑣になります。そういうことを加味
 してあるわけでございます。一応従前よりもを改定す
 る必要もあえてないのではないかというところで、その慣習
 をそのまま踏襲したということでございます。

二五番(田村源治郎君) 今聞きますと、委員の出勤がつかめ
 ないということですが、今回も議員の中でも相当休む
 人もある。議員も日額になおす考えを市当局は、

持たないのか。自治法において日額でよろしいということならば、全部が日額になることが正しい。その点についてもういふん説明をお願いいたします。

人事課長（小沢正治君）質問の御趣旨ごもっともでございします。日額が原則でございしますので、すべての非常勤や特別職は日額で設定するという形であれば、それでもよろしいわけでございしますけれども、一応先ほども申上げておりますように各部門、部門にいろいろ特殊事情もございします。そういう観点から一応従前、そのような形で議会の御承認を得まして実施して参つてゐるわけでございします。

そういう福より実態からいたしまして、際全面的に改めまして全部日額設定という形も諸般の情勢からいたしまして、二、三のような三區分が一応妥当ではなから

うかというところで御提案申し上げる次第でございます。
二五番(田村源治郎君)地方自治法においては日額でもよ
ろしい。その規定があるならば日額が一番正しいことで
あるのではないか。なぜこゝうな情状を持つような
もうをこえてやるのか。その根拠がない。
それから、委員の選ぶ方をどういうふうにしてい
たものと打たか。どういうふうに選んだか。説明してい
たきたいと思つてます。

議長(吉田勇治郎君)暫時休憩いたします。

午前十一時十五分 休憩

午前十一時三十三分 再開

議長(吉田勇治郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。
答弁を求めます。

人事課長（小沢正治君）先ほど二五番議員さん、御質問に
対して、答弁の中で多少誤解もあったようでございます
いますので、改めて申し上げます。非常勤の特別職の
報酬関係は日額が原則というふうなことを申し上げたいと思
います。これは市の議会、議員は別でございます。
議員以外、非常勤の特別職の報酬については勤務日
数に応じてというのが原則でございます。あくまでも、
議会議員は別個でございます。

それから三段階の月額、日額、年額の関係、区分で
ございますけれども、月額関係は当初申し上げました
ように、地方自治法上の執行機関関係が主でございます。
すが、日額に关しましては、その招集に応じて各種委員
の中で、個々に日数がかかる心配のないもの。それから
年額関係のものにつきましては、それぞれ分野で独

自ら自主的に活動する分野が多くて、同じ肩書が全
員さんでも年間9勤務日数が著しく異なるよう
な場合が発生して参ります。さらには勤務の異
態につきまゝで、それぞれ任命権者が逐一把握し
いくつたは事務的に経費や手数数をかかるとつま
ま、それら部門の中でそれぞれバランスを考えた
一定額にするというふうな形で年額で設定すると
いう観点から一定過去のものを踏襲した形になりま
すけれども、そういう原則的な考え方から三区分を議
決をしていただきたいということになっております。

○二番(中村省吾君) 念のためもう一点伺っておきたい
三役の件でございますが、暫定手当が支給される
ことになっておるわけですか。そうしますと、この条文で
は、暫定手当が支給されるけれども、支給する額

及ぶ支給方法については別に規則で定める」というようになってお
ります。その規則はどのようなものかというのが一点。
それから一般職の暫定手当が三年間で五分の五に
下って本俸に繰り入らうということになります。この場
合はおそらく明確にないから、繰り入らうないだろう
と思います。その点について

人事課長（小沢正治君）おおせう通りでございます。一、常
勤の三役にございます。暫定手当はあくまでも手
当て本俸の繰り入りはございません。暫定手当は定
額はそれぞれ国家公務員の場合、各給与表にた
だ定額が定められております。市の規則の中で
は、その定額をそのまま使用する予定でございます。
そうしますと、市の給与表よりもはるかに高額な
額に常勤三役はなるわけでございますが、国家

公務員の現在より三役、報酬に見合った国家公務員より一般職の給与に対する暫定手当の定額を使用する予定であります。

ニ、番（中村省吾君）二点についてはわかりまうたが、三年間過ぎた後において、その暫定手当はどうなるか。

人事課長（小沢正治君）あくまでも、手当でございまして、これは一般職の職員に暫定手当が支給される間、支給されるということでございまして、その期間が過ぎれば消滅いたします。

三、番（中村省吾君）ということはないが、暫定手当が支給されて三年間になると、実質的なことをいふとベースダウン、自然にそういう形を取るということですか。

三年間たつてしまつた三役については本俸に繰り入れないから三年経過後には一万円なり一万円の手当が消滅して本俸のみになるのかどうか。

人事課長（小沢正治君）系より上からは御意見見う通りでございます。——か——三年間の期間がございまして、それが廃止された時点において当然バランスの問題から、また経済情勢の事態からいさよ——その時点で特別職の報酬等審議会に諮問して新しい報酬額の決定をしていただくという方向になろうというところが實際より考え方でございます。

ニ番（中村省吾君）了解いたしました。系よりについては了解いたしましたが、そうすると現実的には、ニ番系例で三年間だけは暫定手当を支給する。——か——三年たつてしまつたとまたえりもくのみになる

ということを承知して私どもは審議しなければならぬ。

報酬審議会というものが設置されておつて二二において三三という議案をせつかく提出するならば三年後にかけなければならぬというならば現実に支給する。現時点においてなぜ報酬審議会にかけないか。当然、この議案を提出するからには三年後に消滅する。それがわかつておつて三年後に切り捨てざるを得ないというところがわかつておりながらあえて提案されておる。今までくつたのだからこれを認めてくつというところで審議会に出すより仕方がない。そういうことがわかつておるなら一般職の人たちも上つてくる。格差がたつてくる。そういうことからある時点においては当然審議会にかけなければならぬ。この点に関

して市長さんお考え御意見をお伺いいたします。

・市長(本間謙君)今の中村議員さん(二)ことにつまみ(二)は手当という(二)ことでございます。実は、かけなかつたわけですが、私の方でも軽率な点があつたかと思ひますけれども別に本俸を上げるといふ意味はない関係上、実はおはかりなかつたわけでございますが、今後において検討して参りたいと思ひます。

・三番(中村省吾君)暫定手当給与が上つてくるといふことに対して別にとにかくいつておるわけではなくて、そのことは別にいい悪いという報酬審議会というものが設置されておる。そういうことで報酬審議会から答申されたものを私たちが議会で審議するという制度上の問題です。その制度があるからには道を踏んで活用していただきたかった。このことを

申し上げるわけでございますが、今後十分御留意願いたいと思つます。

議長（吉田勇治郎君）他に御質疑ございませんか。

おはかりいたします。

本案を討論省略、本案通り可決するに御異議ございませんか。

（「異議なしと呼ぶ者あり」）

議長（吉田勇治郎君）異議なしと認めます。よつて本案は本案通り可決さすまゝ。

日曜第三議案第三十二号について御質疑を行ないます。

二三番（小柴孝君）本案に対しては別に質疑はございませんが、関連して一つお伺いしておきたいと思つます。

青年館が実は四年ばかり前から、市内にもできま

て、先日、説明ではすでに十館というところでございます。
私の方の青年館あたり、状況を見ておりますと、非常
に青少年の健全育成の場としても、また老人クラブ等
のいい場所としても、活用しております。ほとんど青年
館の目的を達しているのではないかという気がするわ
けでございます。一か一かながら、まだ十館でござい
まして、本当に数が少ないわけでございまして、将来青
年館をさらに増設して、よりよく福祉の場を市民
に与えるというような点につきまして、もちろん果
然も補助金が参りますので、果の方針等もある
と思いますが、市自体としては、果たしてこの問題
について、将来はどういうふうにして増設するか、或いは
福祉の利用に供していくか、この点お伺いいたします。
福祉事務所長（池田亮山君）青年館の建設でござい

ますが、ただいま御質問のように四年前からやり
あります。当初の計画でございますと、果は五カ年
間でということでございます。

当館山市におきましては、すでに四年間で当初に
計画した一、二カ所の建設を見てゐるわけでござ
います。従つて最終年度、四十三年度におき
ましては、計画からさらに一歩出ていくわけでござ
います。

果下の状況といった一、二は、果の方針はま
ことに適切であるという意向がございます。なお
将来も期間延長して、二、三仕事をこなすという
ことを聞いております。従つて館山市でも、すで

に四年で当初の予定は完成しておるわけでござ
います。なお、四十三年度、果の方針にのっとり

まゝで館山市もその線にぞって建設に努力していきな
このように考えております。

四十三年度では相次と谷藤原とがまず第一番に
予定しております。なお、果のワクの取次等、そ
いから市が財政のあり次第、この仕事をなお推
進して参りたい。かように考えております。

議長(吉田勇治郎君)他に御質疑ございせんか。
なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を討論省略、本案通り可決するに御異議
ございせんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。よって本案
は本案とおり可決さいます。

日程第三議案第三十三号について質疑を求めます。
 一五番(石井正君)市営住宅現在まで百九十三戸と伺
 っておりますが、住宅をふやすことは結構だと思いま
 す。過去に大賀笠名に建てられましてどうも水が
 不自由である特に湯水期に非常に困っておりますよう
 ですが、これは今後問題になると思ひますが、住宅
 を建てる場合に当局は水の問題をいかように考へ
 ておるか、さらにこれに対して今までどんな処置をさし
 きたか、お伺ひいたします。

建築課長(池田春雄君)笠名大賀地区に夏水不足
 を生じておりますので、昨年大賀笠名に井戸を一
 か所、それから本年度十六戸建てておるプレハブ
 の地区、あそこにハートル位、井戸を掘りまして、対
 策に当っております。なお、石の方ですが、これは

房州水道が入っておりますが、やはり夏には多少不足するようですから、あそこは二カ所手押して井戸を掘っております。大体館山地区は水に困っておるんです。井戸を掘って対策に当って頂く。三ついうふうに考えております。

二五番（石井正君）先だつての市長のお話で今度は船形地区に建てるという事で、私は分散するということを非常に考えておったんですが、まことに結構構構だと思ひます。今後住宅建設については水の問題を十分考慮しなければならぬといつては水の問題を十分考慮いたします。

議長（吉田勇治郎君）他に御質問ございませんか。——なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を討論省味原案通り可決するに御異議あり

ませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決さいます。

日程第四議案第三十四号について、質疑を求めます。
議長（吉田勇治郎君）御質疑ございませんか。——なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を討論省略原案通り可決するに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決さいます。

日程第五議案第三十五号の質疑を求めます。

・二五番(田村源治郎君) この条例第一条中「建築課」の下に「市民センター」を加えると書いてある。加える理由を説明していただきたいと思います。

・人事課長(小沢正治君) 第一条中に「建築課」の下に「市民センター」を加えると申しますのは要するに市役所機構の中になんか課を作るかということでございます。各課も掲げてあるわけでございますが建築課が掲げた課の最後になっておりますので課の資格と同じような形で市民センターを入れるわけでございます。簡単に申しますと一課ふやすわけでございます。

・二五番(田村源治郎君) 「建築課」の下に「市民センター」を加える。市民センターというのはどういうものであるかを考えると不合理的なものがあるのではないか。市民センターと建築課の融通がうまくいくか。その点について

いて油と水のような関係があるが、（笑声）

・人事課長（小沢正治君）条文がたて書でございまして、
建築課の下にせいのふやすという意味でござい
まして、「次に」という意味と目とでございまして、
従いまして市民センターは建築課と同格というこ
とでございまして。

・議長（吉田勇治郎君）他に御質疑ございせんか。
——なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を討論省略原案通り可決するに御異議ご
ざいせんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

・議長（吉田勇治郎君）異議なしと認めます。

よって本案は原案通り可決さいます。

午前の会議は二小にて休憩といたします。

午前十一時五十七分 休憩

午後一時五分 再開

議長(吉田勇治郎君) 午後出席議員数 二十二名
休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第六議案第三十六号について質疑を行ない
ます。

議長(吉田勇治郎君) 御質疑ございませんか。——なし
と認めます。

おはかりいたします。

本案を討論省略原案通り可決するに御異議
ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長（吉田勇治郎君）異議なしと認めます。よつて本案は原案通り可決さうまいか。

日程第七 議案第三十七号についての質疑を承めます。
一九番（島野茂樹郎君）単価の算出でございますけれども、何を標準にどういうふうなことで一万九千六百四十三円というものが出て来たか、この点を一つだけお伺いしておきたいと思っております。

財政課長（長谷川広治君） 単価につまみ立ては、財産管理
審議委員会の答申は坪幾らというのと、これも
むしろ総体で幾らという線の方が強かつたわけで
どういう交渉もいたしたわけでございしますが、その
結果四千四百万という総体の数字で決定を見
たわけでございます。そこで坪当りの単価を積

算いたし、まあたので一万九千六百四十三円という端数に
なつたわけでございます。總括で幾らという交渉の結
果によるものでございます。

・三番(小沢忠太郎君) 本案につきまして、或いは私が聞き病
うになかもしないませんが、こゝ市有財産を売却するに
当りまして動機、財政上売却か、富士デイルセルとう
今までの勘案について売却したのか。

・財政課長(長谷川広治君) 市有財産売却の理由でございま
すが、予算上の財源上もあります。なほまた、いま一
は三十四年度におきまして市有地に接してござい
ます。海岸道路を作つたわけでございますが、そうと
きに富士の土地を道路用地として買収したわけであ
ります。

その時点で当時の市長さん道路用地として買収

するかわりに提出いたしまして土地を売り払う場合には富士に優先して考えて頂くという経過があったわけでございます。たまたまそういう二点から、この土地を払い下げようというふうに決定いたしたわけでございます。

二番（西村真次君）本案を議決することにつきまして別段異議があるわけではございませんが、二点に關係いたしましてお尋ねいたします。

この土地のほかにも今まで処分してきた市有財産があつたかどうか。あるとすればその坪数、その額は、どう位であるか。お示しただきたいと思ひます。

財政課長（長谷川広治君）本年度三件でございますが、他のもものは額が小さいために自治法の規定から申しまして、議会が議決は求めなかつたわけで

ありますが、これも大部分が縁故者に見分けてございます。三件でございますが、額としては九百三十万と記憶しております。正確な数字はのちほどお答えいたします。

一。番(西村真次君) そういったまゝと本案の代金としては四千四百万。その他に九百三十万の処分の代金がある。合計しますと、さほどの額になるわけですけれども、確かに当初予算で市有財産の売り払いという点で計上された額は四千七百四十九万円というふうな気がしております。この額を超過する額になっておるわけですから、さほど補正の必要はないのかどうか。その点お尋ねいたします。

財政課長(長谷川広治君) 三件のうち一件は道路用地として果が買収をいたしまして土地が約三百万で

あつたわけでございます。なお今回の補正には、財源関係から予算に未計上ということでございます。実際の収入につきましては三月三十一日までに入れば収入はいたして決算はいたします。

一〇番(西村真次君)　そうしますと現金がまだ入ってこないというのですか。

財政課長(長谷川広治君)　まだ総額では予算オーバーにはなっておりません。

一〇番(西村真次君)　わかつたようなわからないような感じですが、予算についていかにもこれが最終の補正予算ということですか。そうするとあと補正の機会というのはどう時点においてあるのでございますか。余剰が出た場合にはどういうふうに予算を処理することになりますか。

財政課長(長谷川広治君) 補正予算に計上するからない
かというところでございしますが、現在まで補正予算
には計上いたしてございしません。従いまして實際
の収入がありまして場合には決算額によって増額
と申しますか、予算よりも多く入っていったという数字
が出るわけでございしますが、その金は一般財源として
四十三年度に繰り越していったまゝで適当な財
源として使用する。このように考えられます。

議長(吉田勇右郎君) 他に御質疑ございせんか。

なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を討論省略原案通り可決するに御異議
ございせんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。 よって本案は原案通り可決さします。

日程第八 議案第三十八号について質疑を行ないます。

ニ、番(中村省吾君) 簡単なことですけれども、この条例を新たに制定するわけで、現状の市の中でこういった条例を作らなければならぬ事象が今起っているのかどうか、こういう事情のもとにこういうものを提案するのだという、ことを御説明願いたい。

財政課長(長谷川広治君) ニ、条例は新しく提議をいたしたわけでございしますが、熊山市有財産、及び營造物条例という名のものとあったわけでございします。

それを自治法の改正後失効をいたします。部面がありましてために廃止をいたさないわけでございします。が、たまたま今回道路用地の交換、或いは一部普

通賦産で市有地が間にはさまつて使ひもうたにならない
というやうな土地等を隣接をいたしております土地
の所有者と交換いたしますと広く使えるというやうな
場合、それから公用用地で交換してもうえなにかという
案件、現在三件出ておりますので、自治省あたりで
準則をもとにして、取捨選択いたします。現在、う
例を提出した次第でございます。

二番(西村真次君) 今、質問に多々関連いたします
けれども、自治法が改正になつたのは昭和三十八年とい
ことでありまして、その三十八年までは、従来、営
造物云々の条例でもちろんよかつたと思ひます。け
れども、その後、今日まで四年の時日を経過してゐる
わけですから、新しい条例がなかつたという期間が
あるやうな気がいたしますが、こゝ点いかかです。

財政課長（長谷川公治君）古い条創を廃止いたしま

ーたが、四十二年と記憶してありますので、二年

ばかり空白はありまーた。そう間にはどう条創によ

って適用いたして事務を執行いたことがございます。

一〇番（西村真次君）今う点は了解いたしますが、この条

例の場合ですが、自治省の指示に従ってというよう

なお話でございまーたけれども、標題にありまするな

無償貸し付けという言葉があるわけですね。

「財産の交換、譲与、無償貸し付け」これは有償

貸し付けの場合には、これが適用されるかどうか。

財政課長（長谷川公治君）標題には「無償貸し付け」

としてありますが、有償貸し付けの場合にも減額

をもちて貸し付けいたします場合には、この「等」

中に含まれておりまして、この条例を適用いたして

います。

普通、適正な価格で貸し付けをする場合には、
条例は執行いたしません。

一、番(西村真次君) 適正な価格で貸し付ける場合には、
何れも行ない得ることになりますか。市営住宅の
場合には別に条例もあるわけですが、土地を
普通適正価格でもって貸しているところもある
ではないかと思いますが、その場合にどう規定が推
用されておるか。

財政課長(長谷川広治君) これは三十九年の八月に制定いた
してございます。館山市、財政規則で定めるところによ
り貸し付けをいたします。

議長(吉田勇次郎君) 他に御質疑ございませぬか。――なし
と認めます。

おかりいたします。

本案を討論省略原案通り可決するに御異議
ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。もう本案
は原案通り可決さいます。

日程第九 議案第三十九号について質疑を求めます。
議長(吉田勇治郎君) 御質疑ございませんか。——なしと
認めます。

おはかりいたします。

本案を討論省略原案通り可決するに御異議ご
うございますか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。よって本案

は、原案通り可決せられた。

日程第十 議案第三十号についての質疑を求めます。

二五番(田村源治郎君) ちうとお聞きいたしますすが、ちうても三十月を五十月に上げなければならぬか。二十月上げた理由をもう一回説明していただきたいと思います。

市民課長(羽山房雄君) お答えいたします。ただいま御質問ですが、三条の一項、二号、閲覧手数料の三十月を五十月に、二だけ三十月増があるわけでございますが、大体、たゞいま各種証明手数料、交付手数料三十月あり、四十月あり、五十月ありというふうな、いろいろ取り扱い上にも相当不便もございます。お客様の方でも覚えらるる方も、今までは困難でありましたので、免一たいというところから、この値上げの大きな理由は、戸籍手数料が今まで四十月であつたのが、全国一番に五

十月に改正された。この改正が昭和二十四年以來、経済、状況
を考慮してあつてはいかという市町村側の要望がよ
うやくここでもまづ一國の方でそういう政令を出さ
なければなりません。

これにたういまして今回条例に上げました住民票の手数料
料、それから閲覧手数料、ただ先ほど申しましたように
この際一様に五十円にしたいという気持ちもござい
ます。五十円でなければならぬという決まり規定は別にござい
ませんが、この際戸籍にならうと五十円にしたいわけ
でございします。

・二五番(田村源治郎君) 戸籍が五十円に法令できまつた。
住民票も同じにするんだ。住民票は、これだけ事務
を要するか。戸籍の方は相当かかる。住民票は五十円
だけ、手数料がかかるのか。その点。

・市民課長(羽山房雄君) 手数料の問題でございすが、これは
住民票も戸籍の方も同様の手数料をかけております。
ただ戸籍にのみまゝでは国で戸籍手数料令という法
律も持っております。

国がかえたい限り市町村で独自にかえることはできません
。一か一住民票その他証明 閲覧手数料 印料
金にふては地方公共団体手数料条例という条例に基
いて議会で議決していただければ公共団体ごとでござ
るわけでございます。

一応基準としては戸籍手数料令にならうといきたいと
いうのが当市のたてまゝでございます。

・二五番(田村源治郎君) 戸籍の方は法令でまづておる。
公営団体で定めるものは差がある。片方は三十円上る。
三十円では仕事が一づいからよこせと。市はぶつたくり

ように考える。行き過ぎがあるのではないか。議員としてでも下げてもういたいと思うが。

・市民課長(羽山房雄君) 閲覧手数料でござりますが最近では閲覧の例が商店で売りに出さる。或いは商店等が目的を持った調査で閲覧に見えらうが多いのでござります。二つ閲覧は一件一人で一日中見ても三十円。二つ作成に当りましては市の方で手数料もかけております。費用もかけております。そういう意味も含めまして三十円というは以前から五十円に値上げないという気持は以前から持っておったわけでございます。

それだけ一つ改正をお願いするということは一ひかえりありまして二つ機会に一樣に値上げをお願いしたいというものでござります。

。ニ五番（田村源治郎君）住民票を一日中で五十円。ちよつと見ただけで五十円。商売等は住民票を調べていろいろ商売をやつておる。あんた方は堂々とやらせておるのか。なぜ時間を切つてやらないのか。市はそんなだらうの。ないことをやつておるのか。時間制でもやつてはつきりさせるべきだ。

。市民課長（羽山房雄君）先ほど申し上げましたとおり。戸籍手数料令の一部改正によりまして。戸籍法第四十八条第二項の書類の閲覧手数料については「一件につき五十円」とする。このように改正されました。従前から「一件につき」という言葉が閲覧の用語としてあります。関係で一件につきというのを時間で規定したり。或いは一戸籍につきというふうな表現をしてございまして。法令も従いまして一件につき三十円となつておりまして。そんな関係で一件について五分位で終るものもござい

ます。中には、年前から、年後にわたるものもございます。カーニバルは条例でそうように規定してございますので、五十月以上取らないのが現実でございます。

ただいままでは、戸籍のことを言いましたか。おきに住民票も閲覧になる方が多うございます。

住民票の閲覧は何であるかといいますと、たとえば、五、三の売り出しを計画しますと、大体、本年の七、五、三に該当する子供たちは、どういう世帯に何人位いるだろうか、というようなことを調査に参ります。それだけ時間がかかる。それも一世帯一件とみなさないうで、閲覧にきております回数一回を一件と見ておきます。関係で、そういう時間の差が出てくる。これを一時の間あたり、幾らと定め、でも、同じような結果が、時間を食うのではないか、というような考えており

ます。

・三五番(田村源治郎君)佐氏稟を調べるのは大体商辰が多い。素りある。その他に利用するために調べにくる。

時間がかかる。館山市以外の人もあります。商辰だとか、工場だとか、長く調べると事務的にもトマになる。条例だから仕事がないのだ。条例を作るときに規制すればいいではないか。一日いても五十円。それでいいか。もう一回、一日いても五十円です。いいというなら、そのように答へ願います。

・市民課長(羽山房雄君)お答えいたします。こゝ手数料の扱ひ件数の上からいっても、数は本当にわずかな数になるのであります。それこそ特定の人だけに限られ、市民金般に及ぼす手数料とは思いませんが、いすいすいでも時間がかかる。手数料の額が小さ過ぎる。

少々過ぎるということはどう町村もそういうものに対する適正な取りきめ方を上級官庁の指導をまねいておるわけでありますが、現在このところ、二三条例にありますように三条の一項二号、これで取り扱う以外にないのだという指導を受けております。そんな関係で、当分の間は、このまま時間を持たなくても、やむを得ないのではなか。このように考えております。

。三五番(田村源治郎君) 一日中見ていても五十円出せばそれでよろしいということですね。

。市民課長(羽山房雄君) 今のところ時間について、規制は上級官庁でもいろいろと考慮してあるようにございますが、またいずれそういう指示がありまらう。条例の改正をお願いしたい。一応これで当分の間、やる以外にないのだという指導はいただいております。

・三五番(田村源次郎君)今聞きますと二つでやる以外にないといふんですが、一人一件ではないんですか。

・市民課長(羽山房雄君)それは一種類に限られるわけではございません。目的ですわ。目的が一種類であつて一つづつ書類と時間とをかりて見る。三ついうことでございます。

・三五番(田村源次郎君)一種類とは住民票は何種類あるんですか。

・市民課長(羽山房雄君)住民票は一種類でございます。

・住民票は一種類でございますが、二に条例に記載されておりますものはいろいろ帳簿があります。二が何種類もございます。公文書、図書、図面等、二が三々一項目二号に規定されております。二が公簿の中に住民票が入ります。

・議長(末田勇治郎君)他に御質疑ございませんか。

なしと認めます。

おわかりいたします。

本案を討論省略原案通り可決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。よつて本案は原案通り可決されました。

日程第十一 議案第三十三号 及び第三十一号に関する質疑を行ないます。

二〇番(中村省吾君) 提案説明でよくわかりません。条例を見てはいるんですが、いたしませんので、お尋ねいたしますが、率直に申し上げまして税額控除から所得控除になるという説明があつたわけですが、ただそれだけではないものがありますので、具体事例を

もう、二ヶ場合、こうなるといふことをお示し願いたいと思ひ
ます。

・調査課長(石渡東君) 今まで、たとえば、障害者がひとりおた
その障害者に対して税額控除を受けとった場合には
ひとり一千万でございます。今度は所得控除となりま
すので、ひとり五万円を所得から控除するといふことに
改めらるわけでございます。

五万円、そのものの所得で、たう現在、条例でいままで
税率が百分の二ですから、どちらからやういても、同
じといふことになりますが、おそらく所得五万円といふ
ことは、まずない。何十万といふ所得になつてきますと
千万より所得で控除してもらつた方が有利になる
といふことになります。

そこで、りあえず、例を作つてみたのでございますか、所

得五万の場合、これはいろいろ控除がございしますが、配偶者と扶養控除が三人、これは三万の所得があっても税金はかかりません。従いまして残りの三万に対して税金がかかるのでございしますが、この場合に税額が今までですと七千円という税金になります。果して民税合わせて七千円改正後になりますと、大千五百円となりまして五百円安くなることとなります。

それから七十万円の所得について見ますと改正前ですと一万七千円の税金が改正後におきまして一万大千五百円、この段階においてもやはり五百円有利になるといふこととなります。

それから百五十万の所得を見ますと、今までですと七万二千円の税金で、これが改正後になりますと七万円に、つまり二千万有利になるといふ数字に相なります。

従いまして所得が多ければ多いほど累進税率でございます。
いますので、よけい有利になるという結果になります。
以上でございます。

議長(吉田勇治郎君)他に御質疑ございませんか。——
なしと認めます。

おなかりいただきます。

本案は討論省略原案通り可決するに御異議ござい
ませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。よって本案は
原案通り可決さいます。

日程第十二議案第三十二号について質疑を行ないます。
一九番(島野茂樹郎君)朝鮮、それから大韓民国、二つに
別ですけれども、さうう、説明では南北朝鮮というふ

うにいつおった。今度は南の方を大韓民国という形で付け加えます。そうすると旧来朝鮮というのはいわゆる北朝鮮だということに理解してよろしいか。どうか。その点、もう一度。

保健衛生課長(綱島憲治君) 現在うとろろ北ですか。こゝが正式な名前を日本では承認していない関係で、そのように解釈するより仕方がないと思います。

議長(吉田勇治郎君) 他に御意見ございませんか。なしと認めます。

おはたりいただきます。

本案を討論省略原案を通り可決するに御異議ございせんか。

(異議なしと呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。もう本案は原案

通り可決さうまいな。暫時休憩いたします。

午後一時五十三分 休憩へ

午後二時二十分 再開

議長（吉田勇治郎君）休憩前に引き続き会議を開きます。
日程第十三 議案第三十四号について質疑を行ないます。
一九番（島野茂樹郎君）二ヶ条例を改正にしますと。
今までも大へんに傲慢。その他が重くなる感
にاندずるが、重くならないという理由は休
息にあるのかというところが一つ。それから職員が傲慢
戒にふれて、どういふ場合でどういふふうな処分をす
るんだという規定ですか。そういうものは何によつてな
っているのか。こゝにふれて御説明いただきたいと思

います。

人事課長（小沢正治君）第一点の重くする理由でございますが、これは当初国家公務員と同レベルでこの条例があつたわけですが、その後国家公務員の方は今度の改正案のように改正されておる。果にいたしましても、そのような改正されておる。また他市においてもそのような改正が逐次行なわれてきておる。その中で特に市長がカラス張り、市政ということを宣言しておられます中で、こういう条例が国家公務員や果職に比べて非常に低いということでは、そのままおいておくこともどうか、我々自身としてもこのような条例をはつきりと均衡の取れた形の中で示すべきであらうというものが理由でございます。それからこの實際に當つての基準関係についてはまだ規則の制定はいたしており

ません。結局その事態が発生した都度各任命権者と市長と協議の上で処置を判断して決定しておるといふ状態でございます。

・九番(島野茂樹郎君) 国家公務員の場合にどうなるといふことで一応了解はしたいわけですが、そうすると処分の方は処分に該当するある事件が起る場合に要する言えは、市長任命権者の考え方で一つで適当かというところなんですが、その重さを定めることが出来る。こういうふうにも理解できるんですが、そういうことでしようか。

・人事課長(小沢正治君) 一応説明の表現としては、そういうことが言えるかもしれませんが、やはり取り扱いは原則は公正ということが原則でございますし、国家公務員の行政実例、人事院規則の解釈の關係を取り扱い

の關係に於ては細かい資料等もたくさんあるわけ
でございす。それらが基準になるわけで公正に
どう扱うべきかということを慎重に討議して決定
するということでもございす。が、實際問題はそれ以
前より我々の姿勢が基礎である。こういうふうに考
えまゝで、そういうことが発生したときにこういう形に
なるのだということを一ツかり外部に向かつて宣言
しておく必要があろうかと思ひまゝで、輕重があるという
形を是正しなくてはならない。このように考へてなる
わけであります。

二九番(島野茂樹郎君)了解したいと思ひますが、ただ
たいいてい、戦場といひますか、三という場合には三
という徴収をしますよといふことをいわはきまひです
ね。三というものはたいいてい持つておると思ひます。

確かに今おっしゃいますように判例なりをえに、その決定をするということでございますが、むしろそういうものを明文化して職員に周知しておくことが必要ではないかというふうに考えるわけなんです。

その点はどういう考えですか。

人事課長(小沢正治君) 確かに御意見の面、大事なことだと思います。その関係とそれから処分をする場合に第三者側が批判的な立場や諮問的な審議会や組織等と合わせて今までなかった条制施行上の規則関係、それも検討して参る予定であります。

一九番(島野茂樹郎君) 了解をいたしたいと思います。

二〇番(中村省吾君) 関係してお尋ねいたしますが、減給でございますけれども、二〇以上に停職という制度があると思っております。もちろん減給の方が下で停職

う方が上だろうと思ひます。

重さう方からいうと、ただ、そこで申し上げてみたいのは、
減給という面でも重くしますと、たとえば減給一年、そ
れから停職一カ月という処分。その場合停職一カ月
の方が上だと思ひます。ところが減給五分の一を一年と
いうことになりますと、停職一・二カ月を受けた方が減給
一年を受けるよりも、楽だという声が出てくる。

というのは停職一カ月はノーワーク、ノーペイ給料をも
らわないのは当然だ。ところが減給は仕事は一人前
に、それで五分の一ずつ、毎月給料を減額される
二か月を一年間とらると、こんなさつじょうではない。どうせ、
処分を受けるなら、もう一つ上り停職を受けた方が
いい。おかーな現象が出てきておる。これはあなたが
ち市民のために砂をたかすと言わねましても、送る

効果は今出てきておる。現実に出てゐるんです。

まして、これが破廉恥罪なり別として行政的な処分になりますと、こういう考えが特に強くなる。もう少くも具體的に言いますと、復讐運動その他で処分を受けるということがあります。もう一歩進んだことをやつておいた方が停職になるからいいんだ。減給を五分の一ずつ食つてはたまつたものではなひ。もう一歩やつておけば、停職になるからいいんだ。こういうことが、現在、貴公労等に流れておる。従つて率を上げたから、期間を延ばしたから、必らずしもそれがエリをただしたことになるやない。逆う効果を生むことになり、ます。二つに対してお伺ひたいと思ひます。

人事課長（小沢正澄君）御指摘のやうに懲戒処分につきまゝて、順序は地方公務員法の二十九条に懲

戒処分として戒告戒給停職または免職の処分
をすることができるということで表現されております
その軽重の順序は法律で提示されたその順
序だということになっておるわけでございます
そういう形の中からは戒給の期間が長いものと
停職の期間が短いものというアンバランスとい
いますか、順序が逆になるような形が出ないとも限
らないという御指摘でございますが、これは当然
これを施行するに当りましてそういう配慮をす
るべき問題だと存じます。要は我々役所職員と
いうものはそういう処分をさしないように十分
を保障することが基本問題だろうと思えます。そ
ういう意味から、非常にケースも少ないわけであ
る。さらに実施の段階ではその順序があべこべ

にならないうな適正な配慮がなされなければならぬ
と考へております。いづれに――でも、こゝ関係は非
常に件数が千差万別でございます。――その事件、事
件に処して改めて「三」の關係が本来、趣旨に及
ないまうにもつとも公正適切に処置されることが望ま
いわけでございます。――そういう配慮のもつこゝ条例
の運用に當つて参りないと思へております。

・議長（吉田勇次郎君）他に御質疑ございせんか。――なし
と認めます。

おわかりいたします。

本案を討論省略原案通り可決するに御異議ござ
いせんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

・議長（吉田勇次郎君）異議なしと認めます。――まづ本案は

原案通り可決いたしました。

日程第十四・議案第三十五号について質疑を行ないました。
一五番(石井正君)第三条中の問題についてお伺いしたいんですが、「五百名以内」を「四百五十人」に改めたということの内容がよくわかりません。これは必要なくなつたため減らしたということでしょうか。もうクーザ一詳しく御説明願いたい。

消防長(豊野清之助君)先日御説明したと記憶しておりますが、足員が三十四カ年ばかりの推移を見ております。四十一年四月一日が四百六十六名、四十一年が四百六十三名、四十二年が四百六十一名というほとんど四百六十一名から六名の間でございまして動きがございません。それにさう言う特に増員を必要とする事情もございません。消防業務遂行がない。

それから、国の基準も高くなってゐる。それから、基金（一）
拠出金も多少影響する。こういう次第でございます。
（五番（石井正君））私は消防も常備消防といわゆる消防団
との関係につきまゝ、基本的に考えていきたいと思つて
ございます。人数が減るといふことは、結局希望者が
ないといふことであるわけで、いわゆる国の基準に落ちて
いるといふ言葉がありまゝなけれども、多ければ多いほ
どいいではないかと思ひますけれども、年々減つていく
といふことは何か問題があるのではないかと思ひます。
そこで消防長としては、今後基本的には、常備消防を
ふやして、団の人数を減らしていくといふことが理想で
あるか、或いは両方がある適當な人数でもつていくことが
理想であるか、その点が大きな問題だと思ひますが、これは
予算の問題もございますが、そういう基本的な問題

題も消防長、どういふふうにお考えか、また市として今後どのような方向で運営していくか、その点についてお伺いしたいと思うわけです。

消防長（星野清之助君）常備消防を強化して非常備の方を漸減する考えであるのかどうかという御質問のようでございますが、現在非常備の方は大体ホンア等においてはかなり充足しております。ほとんど一〇〇％に近い状況でございます。

野水池が六五％程度、今後二を充足させねばならぬ。人事員が関係になります。国の基準をかなり上回っております。特に現在要員を確保するに困難な事情もございせん。そういう次第でございまして、現在において改正してもやていける。今後が見通しの問題でございしますが、客観性の推移が

でございます。そういつたことを考え合ひせながら、土地の事情、また諸般の事情などを考えまゝでやていきたいと思ひます。

一五番(石井正君) 現在、状況でははっきりしたことは言ひきれないかもしれませんが、理想としてはどういう形がいいのか。

消防長(星野清之助君) 理想論ということになりますと、前向きということになると思ひます。従いまゝで常備消防の強化でいくことがよろしいんではないかと思ひます。

議長(吉田勇右郎君) 他に御質疑ございませんか。——
なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を討論省略原案通り可決するに御異議ございませんか。

「異議なし」と呼ぶ者あり」

議長（吉田勇治郎君）異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決さしませう。

日程第十六 議案第三十六号についての質疑を求めます。
一九番（島野茂樹郎君）字句の解釈を聞くんですが、
浄化そう管理業という標題ですけれども、具体的に
にはどういうことをする業種なのか。御説明をいただ
きたいと思ひます。

衛生施設課長（吉田耕一君）お答え申し上げます。
浄化そう管理業でございますが、一尿の浄化そう
を清掃、それから管理並びに消毒薬等、投下
という面をおもな業務としておるわけでございます。
こゝが一つ認定にまゐりまして、資格を持った者が、
業を営むものというふうになっております。

・二五番(田村源治郎君) 十五条と十七条に対してお聞き
たいと思います。

ー尿浄化そうの管理技術者がいなければ許可ーない
管理技術者がその業に直接たずさわるか、その点を
お聞きーたいと思います。

・衛生施設課長(吉田耕一君) お答え申し上げます。ー尿浄
化そうの管理技術者でございますが、管理技術者
とは厚生大臣の認定によりましてその資格を取得し
たる者を管理の技術者というふうに呼ぶわけでありま
す。ーそうなるものでなければ浄化そうの汲み取り掃
除というものはできないやだということでございます。
なお先ほど管理業との関係でございますが、管理
業は許可を要しないわけでございます。
ーかーながら管理業の許可の条件といつて

ニうゝな技術者がいなければ許可にならないというわけ
でございます。

次うたゞ一書にございますように、実際に自分自身が
 管理の技術者であるという場合には、むしろ、こゝで
 ございます。

二五番(田村源治郎君)技術者があればできる。実際に今
行な予におる。尿処理を業者を請け負わしてやる
おる。果たして技術者であるか否か。実際に技術
者、認定をもつて市に届けてあるのか。

衛生施設課長（吉田耕一君）私が今申し上げております
点時に今回条例として提案してありますものは、
市の直営のものというだけではございません。一般の
管理業を営もうとするものは、こういう条例に基
いて許可を受けてやらなくてはいけないのだというのと

でございます。自分が資格がなければ資格者を擁
一以上で管理業の申請をしなければならぬということ
でございます。

市、尿処理場の運営は許可を持っている者がいる
のかどうかという御質問のように承りました。
それについてお答え申し上げます。

市の方も現在一名管理者がおります。

・五番(田村源治郎君) 浄化そうの管理業を行なう場合
技術者でない者が、尿処理を行なっている。管理者
は家にいる。末端に働く者が技術者や資格を持つ
ものであるか。許可を得るための技術者であるのか。
・衛生施設課長(吉田耕一君) 十五条は一応許可の基
准と申しますか。二を添へてあるわけでございますか。

二、条例の一部改正につきましては一般の尿の取り

リ業というものは、別個のものがございます。従い
まして浄化そう装置を持ちますところ、五百人未
滿、浄化そう設備を持ってゐる者は全部技術
者と申しますか。技術者を雇ひ上げていくことができな
い状態でございます。五百人未滿の者に対しては
管理業という制度ができたわけでございします。
この制度によりまして資格のある者によりまして、
掃除等管理までやらせ得るやうなことでござい
まして、浄化そう以外につきましては、該当しており
ません。今回特に今までの汚物の取り扱ひ業という
ようなものと、尿浄化そうの管理業というものを明
確にするために、尿浄化そうの管理業というものを
含めまして、今後、運営に当たるといふふうになり
たいと思つてわけでございます。

・二五番(田村源治郎君)——て見ると許可さえすればどこにやらせてもいいのだ。一般がやうてよろしい。市長が認可を受ければそう解釈してよろしいか。

・衛生施設課長(吉田耕一君)——これは一般市の中にございます。大きな会社或いは学校とか一般の商店の大きなもので、そういうたもので、三層の建物を施設のあるところでは、一々小さいもので技術者を置くということもできないわけでございます。三層の建物を認めるということでは法律の一部改正があつたわけでございまして、これを運営するために一部条例を改正いたらない。このように考えるわけでございします。

・議長(吉田勇治郎君)——他に御質疑ございませんか。——
なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を討論省略原案通り可決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決されました。

日程第十六議案第三十七号の質疑を求めます。

一五番（石井正君）市民センターの条例につきまして各条項一応妥当だと認めるうてあります。が、使用料の問題につきまして意見述べたいと申すわけですが、別表に示さぬ使用料につきまして御説明にやりますと、全国のセンター或いは県内のセンターの使用料を参酌して、そが一番最低の線で、館山は作った。こういう説明を聞いておるわけであり、すが、非常に結構なこと、で、半公営的な集合等

いふきまゝでは無料で使用されてゐることが妥当だと思
うわけであります。

そして一般市民が使用した場合の料金は最低である
というよりは良いことだと申しますが、別表の二ページに
ございます。入場税に基く入場税を賦課された場合
と、市民以外の者が使用する場合と、加算パーセンテ
ージが問題ではないかというふうに考えますが、
たとえば一つの場合、ミニ金ホールを使用いたしまして、平
日につきましては一例を取りますと午前・午後・夜間
において行なわれまゝに営業的興行につきまゝでは
平均三百円の入場料を取りまして三回に平均二千
人ずつ収容したということになりますと、総額百八十
万になると申すわけですが、これに対する使用料が、
使用料の十二割相当額を加算するというところに

なると三回に分割して上げますと二万六千四百なに
がーかになる。非常に僅少な額になるわけですが、
これではとても維持できなくなるのではないか、非常な持
ち出しになると思いますが、我々も一、二回関東地区
を視察し、まして内容を聞いて参りまーなが、持ち
出しもせいぜい廿万市という方は温泉地の非常に観光
地ですばらくお客さんというところ。一かも旅館組合
等で非常に力を入れておるところ。ところがほとんどが
赤字で持ち出しで苦んでおります。

一般市民の安いのはいまーでも三という興行とか
或いは市民以外の使用に特殊の場合におきまー
て三という加算率でいいかどうかということを
心配するわけなんです。この点につきまーてどん
なふうにお考えかお伺いしたいと思うわけです。

・市民センター事務取扱者(太田博雄君)お説のとおり料金口、
各市の状況に照らして金わけせましても決して高くはな
っておりません。

ーかー今まで鎌山市におきまして料金を払って会議を
するという点もありなしておらないという点とも一応
考えましても少くとも、そいてより多く使用されて参
りたという点で考えられているわけでございます。

なお料金、改正等もある時期におきましては、
むを得ない場合もあるとは存じますが、けいとも、
今のところたゞいま議案に示すまゝ料金でもって、
まゐっている点と存じております。

・五番(石井正君)はじめての試みでわかりにくい
点が、我々にもあるわけですから、けれども、ほかり都県
或いは県内、ほかり使用料と見ましても、非常に

館山市の高いわけで最初は二つで踏み切りますと
改正するといふことは、いわゆる値上げ改正であります
ので、非常にまずいわけで時期を見てというお
話ですが、十分次回は検討をしまして再三値上
げの変更のないように御配慮いただきたいと思います
わけです。

○四番(伊賀多朗君)付帯設備、使用料というものは、
会場、使用料にプラスされるんですか、会場、使用
料の中に含まれておりますか。

・市民センター事務担当者(太田博雄君)加算されるわけで
ございます。

・議長(吉田勇治郎君)他に御質疑ございませんか。

—なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を討論省察原案通り可決するに御異議
ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。よって本
案は原案通り可決まいりました。

日曜第十七議案第三十八号について質疑を行ないます。
一 九番(島野茂樹郎君) ニニ 条例の改正によりヨート・極
端なことを言いますけれども生まれ直後から、学
校に上るまで、子供を保育所に預けることができ
るようになる。こういうことだと思えます。

この点は非常に進歩だと思えますけれども乳幼児を
収容う施設、今までは、荷ニヤ以上、というところになつて
おり、まいにちから大体歩けるようになってゐるはずで
すが、これからは乳幼児を収容していくという条例が

上からは、なろうかと思ひますけれども、そういう施設は、
完全に見備へて、いつでもさういう子供をむかへ入
るまうになつてゐるかといふことが一つ。それから、別表
の中で、定員を削減されておられますけれども、二
削減によつて、保育をしないという方がおつても、定員
が百名ですから、だめですといふことが起らないか。
どうか。二、二点について、お伺ひいたします。

・福祉事務所長（池田亮山君）第一点の年令の問題で
ございますが、児童福祉法の本法で申しますと、
お説のとおり、生まれ立てからといふことでござい
ます。ただ、熊山市の場合、この条例の第一条で、幼児とい
う言葉が使つてあるわけでございまして、

本法でいいますと、満一才^才未満を乳児と称する
ます。この条例で申しますのは、第一条のものを改正

せずにそのまま生かしておるわけでございます。

ただ、二ヶを満一ヶに改めたいというのが、現実の問題でございます。

私たちの希望といつては、いわゆる生まれながらの保育するということの方角を打ち出していきなさい。そうふうに改善していきなさいというのは、私たちの希望でございます。遺憾ながら現在う状況でございますと、生まれながらの子供を収容する施設を擁してありません。また、それに付随するいろいろ施設的な制約を受けます。現在では生後満一ヶ以上からという考え方でございます。

それから、第二点の定員を減らしたわけでございますが、これは説明のときに若干申上げましたわけでありましたが、現在那古純真保育園は百五十五名の定員でございます。

その中で現在実際に保育士となりますものが百三十二名
程度でございます。その中で船形地区の川名根岸
等を含めましてたものが四十名程度、那古地区も保育
園に入っておりますのでございます。それを含めて百三
十二名程度でございます。そこを地域的に
操作いたしまして船形地域百名のところが六十名
乃至七十名か入っております。そこを勘案
いたしますと二百名程度で十分収容可能である
と考えております。

議長（吉田勇治郎君）他に御質疑ございませんか。
なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を討論省略原案通り可決するに御異議
ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。さうで本案は原案通り可決さうしました。
暫時休憩いたします。

午後 三時三十分 休憩

午後 三時三十分 再開

議長(吉田勇治郎君) 休憩前に引き続き会議を開きます。
日程第十八 議案第三十九号について質疑を行ないます。
議長(吉田勇治郎君) 御質疑ございせんか。——なしと
認めます。

おはかりいたします。

本案を討論省略原案通り可決するに御異議ござ

ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇次郎君)異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決されました。

日程第十九 議案第四十号について質疑を行ないます。
一 三番(山田敬宇君)第二条で「失火を受けることを予測し、
「たばこも」と書いてありますが、もし「二」が自分「過失」
失火は過失、中間的な場合があり得ると
思えます。

そういう場合に「二」に適用されないと思うが、それが一つ
それか、もう一つは、いわゆる功績が顕著な者、多大な
功績「顕著」と「多大」はどういう差を持っているか。
分け方について見解でございすが、

消防長(星野清之助君)二条の関係で過失の場合、

或いは中間的な場合が予想されるが、そういう場合適用するかどうかということでごございますが、ニハはあくまでも特別の場合ということでごございます。

自己に重要な過失があつたことが認められる場合、そういう場合には一般の公務災害で処理することになると思ひます。それから中間的ということなんですが、今の回答でかんばん願ひたい次第です。

それから功勞の場合ですが別表にうつてありますが、「特に抜群の功勞」と「抜群の功勞」という建いでございます。ニハはまとまつたものがないわけでござい
ます。抽象的になります。けれども、たとえば身う
危険をかえりみず大災現狀において大勢の身
を救つたとか、類焼、延焼等が状況としてあり得る
場合にニハを敢然と食ひ止めるために消防作業に

従事したために落下物等で死亡したとか、危険物が
屋内にあり、それが爆発すると非常に重大な事故
に発展することが考えらるる場合、それを取り除く
ために敢然と飛び込んで身を犠牲にされたという
は、イヤー、拔群の功勞ということになるかと思ひます
ロの場合でございますが、これはそういつたことを基礎と
いたしまして判断して、そういうエイトの関係がでてくる
と思ひます。要するに、これをきめる基礎は殉職さ
れた場合には、ここにございます通り、あくまでも具
体的な今申し上げましたようなことを判断いたしまして
具体的な功勞の事実とそれから、さうに平素の
問題を若干加味いたします。それから、もつと具
体的に火災の規模、状況、条件など、そういつた
ことを、いふくいたしまして、判断されるものと

います。いかがでございましょうか。(笑声)

三番(山田教字君)私が質問いたしましただけは功績を
次々お並べになつたようでございしますが、そうではなく「顕
著」と「多大」そういう表現に対して何か目安がござ
いますかというのをお聞きになわけです。

有防長(星野清之助君)私どもは「ノイ」を軸にいた
まして、状況を判断いたしますことになろうかと申します。
具体的にどういふ場合だと言わいまして、にわかにこ
ういふ場合だということには参りかねます。具体的に
には先ほど申し上げました三つを軸にしてケース・
バイ・ケースでいろいろな状況を加味しんよくいたしま
して判断……

三番(山田教字君)どうかもう一つきた文章ですか。
考へた文章ですか。

消防長（星野清之助君）ニよは歴史的には昭和二十八年に最初出てゐるわけですが、それが三段階になつておりまして、昨年八月に国の方から基準が示された基準が、こゝなんです。裏話になりませんが、このことが御質問と一飛ぶ出すが、どうも、このことを予測したものであつたらう。照会などいたしまして、どうも、いい回答が得られないのでございます。私も、私が今申し上げたようなことで処理してゐる。

このことがあつて困るわけでございますが、いふまでも、今後、このことを考えますと、早急に判定、大方がよろいからう。このことでも願ひ申し上げたわけでございます。

九番（三務勇君）関連になります。ただいま消防長が

御説明を聞いておりますと大へんあらまいたような
ことでわかりかねますが、条例はもとと明確さが欠け
おるといふうに感づかれます。特に第五條の「賞
金」の授与については市長は館山市消防委員
会にはかり、消防長、消防団長と協議の上、決定す
る。レ、三三いう言葉があります。が、三三にゐる人たちは
現場にゐない人たちはかりで、現場にゐない人たちが、
決定した支給した場合に一個人、感情によつて判
断されることがあるのではないかといううに感づか
れますが、条例である以上、もつとはつきりとした支給
基準をきめるべきではないかという気持ちがあります
が、その点、

消防長（星野清元助君）五條の關係でございます
けれども、三三といふことについては消防署員と消防団

員という二とに相なるわけでございます。

従いまし、それより長の方が現場におられるわけでございます。そういった方々の現認から、その他の方が目撃等などを言まいたことを基礎にいたしまして所属長から申請していただくまして、それをさらに具体的にもう一回調べるということになると、思いますが、そういった資料を基礎にいたしまして、おはかり願うわけでございます。

消防委員会構成は御案内のとおり、学識経験者になつておりまして公正な御判断をいたいただくものと考えまして、消防委員会といたした次第でございます。

九番（三幣勇君）消防長のお話、大体わかりました。が今まで例がありますかどうかわかりませんが、

消火活動中に実際 とういうものが判断できるかどうか
たとえば人間を救出に屋内に入つていった場合、その前
後とういうものは本人以外に判断できないと思ひますか
とういう場合、判断がつけますか。

消防長(星野清之助君) とういうことを考えまゝ
先ほども解きまゝだが、その方の平素の勤務状況とか
いろいろな状況等を考えまゝにさらに目撃者等
がございまゝたら、とういう方々を参考的な御意見
を十分取りまゝして判断いたします。 とういうことにな
ろうかと思ひます。

九番(三幣勇君) 平素の勤務状況で死したことに
判断するとういうのはどうもおかしい気がする。 条例
はもと基準のほうきりといたものを作るべきではな
いんですか。

消防長(星野清之助君)平素の勤務状況と申し上げま

ーたが、それは参考でございます。それに全部従う

ということではありません。一身を犠牲として消火に従

事するという基礎は平素から一ツカーンの方で

なければ出てこないと思います。

ただ現に見ておられないから、わからぬが、はというふうな

御質問でございますが、やはりこれは一ツの優遇

的なものでございます。一般公務災害と違いま

て特に授与する。こういう性質のものでございます。

優遇的意味がそこにある。具体的に現れておられ

というところでございますが、一カーン火災現場の下でござい

ます。大勢の方がおります。その状況下に

おいて死んでおられるとか、障害を蒙りおいた、ということ

は見事なことがつくと、思っています。

九番(三幣勇君) どうも消防長の話を聞いておきますと
大体の見当とかふだんの勤務状況とかどうもわかり
かねますけれどもうケーはつきりとした御回答を

消防長(星野清之助君) ですから結論的にはここに
ございますようにという過程をたどって死と云ふた
か、或いは障害をきたしたかというところでございま
す。が、それは現場に居合わせた方々のいわば証言とか
また後刻調査いたしましていろいろ事実に基づいて
判断する以外になかうかと思えます。

これは火事場とは限りませんが、大体火災現場
における死亡或いは身体障害ということになる
わけでございますので、ただいま触れまいたことを
総合的に判断してやるというところでございます。

九番(三幣勇君) 消防長さんのお話を聞いておしま

すと、第二条の条件とは、だいたい、かりはなれた説明
のようになり取れますが、条例ですから、あくまでも
はつきりとした基準をもつて作りなおすべきでは
ないかと思ひます。私、質問を続けます。

一三番（小味孝君）一三番議員と全く同じ質問でござ
います。私聞いていてさうばかりわからないうで、も
う一回消防長さんにお尋ねいたしますが、第二条
にあるのが根本でございまして、当然、笑尼を受け
ることが予測できるにもかかわらず、というのな、そ
うときは消防士は決死の覚悟でやるのではないかと
思ひます。死ぬのを覚悟してやる。これはもう立
派な行動であります。従つて行動を取つた人が
三段階に分けられることが納得できない。

私、考えは口へはいらないで全部抜群う功績

と認めてさうつかえない。

私も一消防委員として諮問を受けたときには、これにしよう
それによろうという考える余地がない。人命をかえり
みず、災害を予防するところ、業高な精神にのつ
ところときには当然、抜群の功績と認めてさうつかえない
従いまして一三番議員さん言われた顕著とか、多
大の功績、これに関連性というものは、消防長さん、さ
う御説明ありますけれども、わかりない。

この点もうさう御研究願って、次う消防委員会でも
結構です。もうさう、具体的に御発表願えば幸
いですが、このまま無条件に通すわけにいかない。

身を犠牲にして、それがために何人か、人が救われた。
これを多大の功績によろうや、特に顕著な功績に
しようや、ということ、諮問を受けてもお答えはできな

い、崇高な消防精神にうつろひ、最高額の補償を
 を受けるというところであつたらう消防士としても、励みに
 なります。——カー、抜群になるか、多大になるか、ふだ
 んの本人の行跡によろ——これは多大に——というこ
 とでは、私は消防委員としてふに落ちない。そういう
 点についてもう一度消防長さんお答へ願いたい。

消防長(星野清之助君)先ほど触れておりますように一般
 の公務員災害の場合には補償というところでいくわけであ
 ります。これは特別というところになります。が非常に
 ありがたいお言葉で私も——ま——でも、そういうに
 たいば、それでよろうかろうと思ひます。

たとえば、具体的な場合に公務員災害ではちまうと気が
 毒だ。これはちまうけて救いたいというケースがないとも
 限りません。

それから、最高のもので処理したらどうかという御意見でござりますが、具体的な場合にできるだけ優遇をいただけるようにいろいろ処置していただいたら本当に結構ではないかと考えます。

二番（小栗孝君）現在、状況ではそういう事実によつてございせんや。条例は一応よろしいやうにございまして、うが、死んだ人間を三つの階級に分ける死の方とか、働き方、そのものが三つ位だったら抜群だ。三つ位だったら多分だ。本人そのものは崇高な消防精神を發揮してゐる。それを三つ段階に分けることはふに落ちない。具体的に三ついうふうにやうにござる。よその市の例があるところがあつたら参考にお答え願ひたいんですが。

消防長（星野清之助君）先ほども触れましたが、桌下二

ナ市のうちかなりのところでもう実施しております。そうして実施しておりますところの条例等もいろいろ参考にいたしまして作り上げたわけでございます。ほかでも大体三つでやっております。

具体的な場合にできるだけ優遇していただくということが主眼になるうではないかと思っております。

どうぞ消防委員さんとして大いにそういう場合に優遇をお願いいたします。

ニ八番(望月照正君)ただいま三十八年から適用しておるといふことで千葉県内でも確かに消防職員が殉職者が今まであったと思っておりますが、そのとき事例を話を聞いていただきたいと思います。

消防長(星野清之助君)私に問題について聞き及びますところ、最初、段階ではほとんど作っておらなかつ

二二四、五年でございます。いろいろの関係があると
思いますが、事例でございますが、千葉に一つと船橋
かどこかにあるだけで、現在るところ、二つ位だ。それを国
の基準というのがかたがたうるさいでございます。
なかなか、国の基準に合うというケースにたりますと
相当きびしいわけでございます。

申請一まゝなところがなかなか、国の基準に合わないで
苦勞さいな結局、具体的に一つだけ認めらるゝなという
ことを申しております。

二八番(望月照正君)先ほどからいろいろ話を聞いたんで
すが、この殉職さいな場合に賞じゅう金や授与に
関しては、市長及び消防委員会、消防長、消防団長
と協議の上で決定するんでしよう。国の基準
ではなんでしよう。

消防長(星野清之助君) 逆説的に申しますと、これがございまして、国の基準が厳しく関係がなかなか、該当するケースが出てこないということ。市の基準が国の基準よりきびくかないかということになりませんが、それが優遇ということでございますね。

二八番(望月昭正君) 消防長さん、これは熊山市の条例なんですよ。これは国の基準云々というところは別なんだろう。あくまでも市長、消防長、消防委員の皆さんまで決定できるものでしょう。国の基準なんというところは考えなくていいと思うんです。それからもう一つは授与の決定権はどこにあるか、お話しただきたいと思えます。

消防長(星野清之助君) 私が先ほど国の基準と申し上げましたのは参考でございます。もう、ここで条例

を作りますと、場合によらず申請を出さなければならぬ
国からもいなければおりますから、そういうことを含みに
して申し上げなければなりません。

あくまでも当市はこれで行きます。

それから最終的決定者は市長が授与することにな
りますので、市長でございます。

二番(望月照正君)答弁をまとめていただきたいと思います
んですが、先ほど千葉、飯橋で一件ずつあって一件
は適用されたいけれども一件はだめだった。一件がどう
して適用されなかったのか。

消防長(星野清之助君)詳しいことは聞いておりません
けれども聞き及びまいるところでは何か体に疾患などが
ございまして、職に就くことが出来なかったと聞いて
おります。

・三番(望月照正君)市の条例は大事場に行つて死んだ
というところでしよう。それを消防委員、市長さん、あれ
は心臓麻痺で死んだからというところで一つが漏れた
のか。国が基準で漏れたのか。それを聞いておる。
消防長(星野清之助君)国が基準で漏れたわけではござ
いますね。

・二番(望月照正君)それがおかしいんです。何で市の条
例ができて国が基準に漏れるんですか。
市の条例ができてから条例の中で二百万出ては、
いけないと国がいえるんですか。

議長(吉田勇治郎君)暫時休憩いたします。

午後 三時五十二分

休憩

午後 四時 八分

再開

・議長（吉田勇治郎君）休憩前に引き続き会議を開きます。
・消防長（星野清之助君）二八番議員さんにお答えいたします。
先ほど御関係でございしますが、私、若干勘違いがございまして、木更津だそうでございしますが、当時市に条制を制定がなかった。国と県にございまして、わけで、二と同一ようなものがあつたわけだ、ございします。
国に申請した、まゝたところが重大な過失があると、いうことで却下になったという案件だ、そうでございします。

当時県にはなかったというところでございします。そういうことでございします。

・二八番（望月照正君）消防長さん、先ほど、ことが間違いで、県にも市にもなかったときなん、だ、という、こと、なら、

わかりますが、四五年前から二、三ヶ市ができた、
 あそ申請したら、固く基準に合わなかったから
 だめだということ、で矛盾があつたから、お尋ねした
 ニ、ううな消防関係といひますと、身の危険を
 感ずる事例が出てくると思ふんです。ですから
 消防長さん、三ついったものをよく勉強していただき
 と思ひます。できるならば、こゝ次、義会で結
 構ですが、今まであつたものを、県内で例があつたら
 お知らせ願ふは幸いです。終ります。

二六番(秋山大三郎君)第五条でございますが、賞に
 金、授与については、市長が館山市消防委員会に
 はかり、消防長、消防団長と協議の上、決定する
 といふ条文なんでございしますが、消防委員会に
 はかり、といふことは、三三で段落がつくわけでござい

ます。消防委員会にはかつて諮問して得た結論と
いうものを今度は「消防長・消防団長と協議の上決
定する」という二つの段階を経て幸いにして結論
が一致すれば問題は無いわけでございますけれども
人間々あることでありますから結論が一致しな
いという場合は最後に市長が断を下さなければ
ならない。こういうことになる。市長に非常に大きな
責任を負わせなければならぬ。こういう結果が私は
生まれると思っております。二、第五条の条文で
そういう食い違いが絶対起らないという自信があ
りかどうか。自信というより起り得る事実がある
かないか。断言できるか。この問題について

・消防長(星野清元助君)お答えいたします。消防委員会
の構成でございますが、団長さんも入っておるわけでござ

山形市議会
います。従いまゝておそろく結論は同一のもので出ると判断してよろしいんではないかと思ひます。

ただこの表現からいたしますれば、消防委員会が判断が決定、そのものではないわけでございます。一カー優遇という点から考えまゝて水が高いところから低いところに流れるように消防委員会が御判断は消防長・団長・市長の判断と軌を一にするような形になるのが現状ではないかと思ひます。なかなかむづかしい問題でございますが、そういうような判断で運営していかれるのではないかと思ひます。

○二六番(秋山六三郎君)ただいまの御答弁によりますと消防委員会の中に消防団長が入っているから云々というところでございますが、一カー、市の条例でありますから条文に忠実になければならぬ。

そういたしますと、条文の中に「館山市消防委員会に
はかり」そこで投着が付さいて次の問題は別個の
事項として一つ協議事項、ですからこれをもって同一
の意見があることと思ひますということは、それは一つの
予測でありまして、条文の上から、こういうことは明確
にこの委員会に諮問して市長が決定するやうだ、この
うなうなはつまりこの線が打ち出されてない、と条文
とで不完全な矛盾が出てくるやうな感じがするわ
けでございます。この点に対する消防長、御意見
見を再度お聞きたいと思ひます。

・消防長(星野清之助君)消防委員会は市長の諮問機
関になつておりまして従ひまして特にミニクといま
せんけれども、そういうことになると思ひます。事實は
消防委員会に諮問するという形になります。

實際問題としては、

。二大番(秋山六三郎君)私うお聞きされていることは消防委員
員会にはかり、さらに消防長、消防団長と協議の上
云々という、消防委員会にはかりという一つは事実と消
防長、消防団長と協議するという一つは事実、そこに
二つの事項が生まれてくるわけであります。

二はが人間ですから、必ずしも一致するとは限らない。
先ほど申し上げましたとおり、そういう場合が或いはあ
り得るかもしれない。きまつてゐるなら、二つを二とを
書く必要がない。三という二とが一本化してもうで
表現されておきませんと、条例として非常に私は、
不満足な表現ではないかといえるわけです。

三という条例は非常に重要なんです。最後は、
市長が断るをくだすりだから、いいと考えるのは、それ

までですけれども、市長が断をくだすまでに、二、三という
機関とはかつて結論を出さなければならぬ。

消防委員会が結論というものと、さらにこのこととは別
に消防長並びに消防団長に相談して定めるという二
つあり方、二、三のところに何かつかかるものがある。

要するに消防委員会に諮問し、その結論を基礎
にして市長が最後に断をくだすという二つことである
ならば、それでもいいと思えますが、この素文でいきま
すと、私が申し上げましたような解釈が取れる。
そういふふうに分るわけですね。

二、三点に対する見解をもう一回聞かしていただきた
い。消防長(星野清之助君)「二、三にクランをいたしたこと
は納得がいかないという分る考えようでございますが、消防
委員会は市長が諮問機関でございますので、

消防委員会、御判断を尊重してやるということ
でございます。

消防委員会、決定。それもたいていもうと形式上、う
まうと問題が出てくるのではないかと思います。

これは形式的な問題ですが、ミニクッションをおいたわ
けでございます。ストレートでござい、多くて人が判
断した方がいふのではないかと思ひ、まゝでござるだけ
公平、均衡ということを念願いたしまして、二、三
い、とりわけでございます。

・三五番(田村源治郎君)私は五条と関連して障害に対
して消防だけ、もう、あてはまつた条創を作った。

消防に対して一般市民がやった場合、いかにするか。

それから、二六番議員が言われたとおり、明確でない。

消防長、消防団長は現場を現実につぶさに見て

常勤している。委員は常勤でない。非常勤、音見
にまづ二点を擇ぶ。三つう、条例をなせつくるんだ。

その二点を確實にするべきだ。その二点を質問します。

・消防長（星野、清之助君）第一の一般のものが、そういう

ことがあつた場合という二点でございしますが、消防法、水

防法等の規定からいたしまして、一般のものと関し

ましては消防署員、消防団員等から手助けを

して、くれとお願ひした場合は、或いは自分でいたしまし

た場合もいろいろ規定がございます。

そういう場合の問題につきましては、先ほど

公務災害補償の関係で処置できるところになす

おります。公務災害で普通の公務員と同等

に補償する仕組みになすおります。

それから二番目、団長や消防長が現場においてよ

くわかつており、委員の方々は現場におられないから
云々という事でございますが、消防委員会が構成
は田長さん、副田長さん、全部を含まいておるわけであ
らう。消防委員会そのものが認定も決まらずに形
式的なものにならないよう、な仕組を考えまうて、こ
ういうことになったわけでございます。

二五番(田村源治郎君) 第一点は了としますが、素例を
作る場合は明確なものを作るべきで、明確な仕事
をやるべきではないか。自分たちが作り上げていては
つきりないというわけ、なぜこの五条を出すのか、も
形をかえて出せというておる。ふんないものをなぜ書
くんだ。こうとおりやりますというなら、私は質問を
打ち切ります。

消防長(星野清之助君) 当市におきますところの消

防費いっつ金の最終的権限は市長にあるわけ
でございます。——市長が現場におられる
わけでございます。なかなか判断が大へんで
消防委員会とか、私どもの判断を資料にしてい
だいて決定をくだすという二つになつておりますが、
具体的事実につきましても、現場におられる方々目
撃証言とか、その他さらに追加調査いたしまして
結果などを総合的にいろいろ研究検討いたしま
して、できる限り、公正の線に持つていく。そうして
優遇という二つを如味いたしまして殉職された方
または身体に障害を起された方に或いは遺族
に優遇を憂いがないようにするという一面とまた消
防団員等に対する志気の問題を考えて、二つは
優遇措置という二つでございます。

二五番(田村原治郎君) 五条ウニウ条例に対してきちんとして仕事ができるのか、できないというところをあなたは説明している。できるのか、できないのか、ニイとウリにできなければいけないという事、いいなさい。消防長(星野清之助君) できるわけでございます。またできるように努力をいたさなければならぬことでございます。

二六番(秋山大三郎君) ニウ問題は先ほどから非常に論議がありまして私はまだ、すつきりとしてわけではございません。一カーニイは消防のいわば消防士の優遇措置である。ニウいうような面から今後なにか研究する余地が多分にあるんではないかと考えるのであります。私はニウ条文については以上の御答弁によります承いたない。

かまうに存じます。

議長（吉田勇治郎君）他に御質疑ございませんか。

——なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を討論省略原案通り可決するに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）異議なしと認めます。

よそ、本案は原案通り可決さいます。

日程第二 議案第四十一号について質疑を行ないます。

一九番（島野茂樹郎君）一つだけお伺いしておきたいと
います。この条例が可決された場合には四月一日から
公布するということでありますから、今まで9分

にはおそく、湖及をいってということにならぬと思ひま
すけれども、既設のものに対するこの条例の適用
というふうなことは考えているのかどうか。これを
明確にしておきたいと思ひますので、御答弁願いた
いと思ひます。

企画課長（谷見茂生君）　この改正案は四十三年四月
一日から施行するということになっておりますが、優
遇措置が税額にわたって二カ年間という二とにな
っておりますので、あくまでも課税される年度が
たとえば一年経過しておいた場合、もう一年ノ一
かという場合には、一年分だけは適用すると
いうことでございます。

元番（島野茂樹郎君）　そうするとたとえばこの条例
に該当するもうな企業が今年四月一日以前に

開業をして、そうして、この優遇措置が、二カ年たつて、
あと一年だけ残つてゐるといふ場合には、一年だけ、この
条例を適用して、優遇措置とすることを、いふことでは、そ
ういふ解釈で、いひわけですわ。

企画課長（谷貝茂生君）　そうとありでございします。

二八番（安西益男君）　この条例が、二十七年に制定されてゐる
わけでありまして、今回新たに観光施設といふ条例が加
えられたわけでありまして、二十七年から今日まで、何か所か
の工場が、進出してゐるかといふことを、お聞きし
たいと思つてゐます。

それから受け入れ、幾分勢力が、状況、或いはまた今後、諸
政に対する見通し、計画、そういつたことを、お尋ねし
て、ます。

企画課長（谷貝茂生君）　この条例が制定されてから、

現在まで通用箇所はございません。

今回観光施設を加えようとする目的は、今後熊本市が伸びていくためには観光というものを重点施策として打ち出しておるわけであり、その中でも、公営投資ばかりでなく、市の観光面を伸ばすためには、どうしても民間進出をどうしても運動を続けながら努力していかねばならない。そういふことから、今後引張るための一つは、優遇措置として進出をしやすいようにする。その場を設けておく。購する。それによつてなるべく進出してもらつて、方向に早期促進をはかる意味におきまして、観光施設というものを設けたわけでございますが、これから進出する。今後、予測といつても、これは現在ただ、そういう方向で最善の努力を傾けながら、企業、進出を一つ

でも多く進出願うべく努力していくという事でございます
うで、今うところ、何社とかいう見通しは持っておりません
・八番(安西益男君)長い期間にわたる、今なおほとんど進
められないというふうなことでありまして、市長を描く十
都市というのに対して、具体的な受け入れ態勢が
準備はしていないように見受けらるゝのであります。
そういった観点から、もと、積極的な受け入れ態勢に
対して、計画を早急に立てていかねければならぬので
はないか。このように思いますが、この点、今後十分、そうい
面を受け入れ態勢に積極性をもつて、当分の間、いただき
このように切望するものであります。以上をもちまして
終ります。

・六番(五十嵐昇君)今ほかう議員の方々からもございま
す。だが、本市の特色を考えて見ますと、そこに観望

都市であると銘打て本市が飛展しなくては飛展する余地がない。こゝうこゝうに考えられます。

従いまゝて現在、館山市の形態をながめて見ますと、産業面におきまして、雑然としておる。ことに都市衛生とか、都市の公害問題等が非常に叫ばれておる。昨今、いろいろ面で、各産業が雑然としておつて、そういった観点から、都市衛生とか、都市公害の配慮という観点から、いふやうなことがなされていぬ。というふうにも考えられるが、あります。

従ひまゝとせず、第一に都市計画というものを作
つて、熊本市の特色のある観光都市とし
て、どこにどういう産業を持てよべきであるか、
三つ、四つ根本になる都市計画を早急にお立てい
たでまゝとせず、その都市計画に基きまゝとせず、本市

の企業誘致ということでは私は参らなければならぬ
のではないかと、こんなふうにかんがへてございます。

以上、私、希望条件を簡単に申し上げる次第で
ございます。

議長（吉田勇於郎君）他に御質疑ございせんか。
——なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を討論省略、原案通り可決するに御異議
ございせんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇於郎君）異議なしと認めます。よつて本
案は原案通り可決さうなりました。

今日の会議はこゝにて延会といたします。

次会は明三月十二日午前十時開会といたし

ます。

その議事は本日に引き続き議案十一号乃至第十七号の質疑を行ないます。

午後 四時四十二分 延会

本日、会議に付した事件、

一、議案第十八号乃至第四十一号

出席議員

吉田 勇治郎

嶋田 石蔵

伊賀 多朗

藤田 益治

磯 田 博

白熊 盛太郎

黒川 正

三 幣 勇

西村 真次

小柴 孝

山田教宇

石井 正

五十嵐 昇

江田徳太郎

安西益男

島野茂樹郎

中村省吾

関 武夫

小澤恵太郎

飯田義男

田中祿郎

田村源治郎

秋山六三郎

安次徳順

望月照正

山口 康

欠席議員

石井 輝又

菊井敏博

遠山ヨネ子

鈴木市蔵

出席説明者

一 第一日目と同じ

出席事務局取員

二第一日目以下

